

今日のトピック ECBの金融政策は緩和を維持（2017年6月） 景気判断を上方修正、緩和縮小も視界に

ポイント1 金利政策を据え置き 量的緩和策も継続

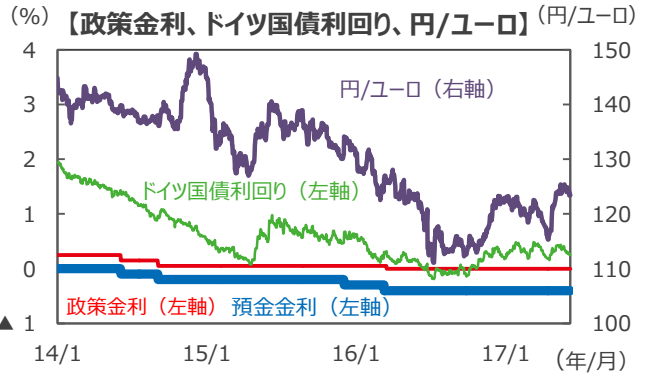
- 欧州中央銀行（ECB）は6月8日の理事会で、政策金利、中銀預金金利（金融機関がECBに余剰資金を預け入れた際に適用する金利）をそれぞれ0.00%、▲0.40%に据え置く決定をしました。
- 量的緩和策である資産購入プログラムの内容にも、変更はありませんでした。すなわち、少なくとも2017年末まで合計で月600億ユーロの国債や社債などを購入するとの方針を維持しました。

ポイント2 しばらく緩和姿勢を維持へ 経済見通しは小幅に上方修正

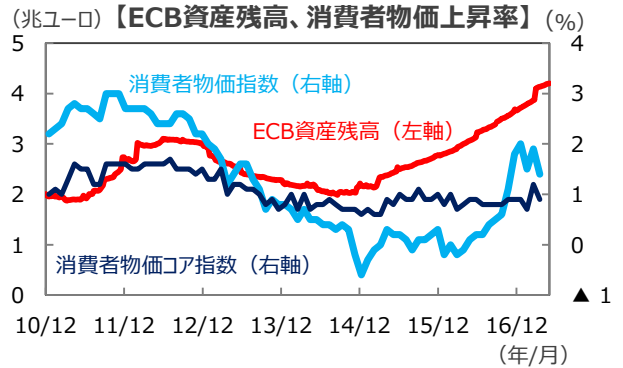
- 将来の金融政策に対する考え方を示すフォワードガイダンスは、「資産購入プログラム終了後もかなりの期間、政策金利が現状水準で推移することを期待する」でした。会合後のECB総裁会見では、経済情勢次第で利下げを実施する可能性にも言及し、必要があれば資産購入の延長や規模拡大を実施することを示唆しました。
- 経済判断については、19年までのユーロ圏成長率予測値を小幅に上方修正し、見通しに対するリスクも従来の「下振れ」から「概ね均衡」へと変更しました。一方、物価判断は、原油価格の下落等を受けインフレの予想値を下方修正し、「基調はなお抑制されている」との従来の見解を踏襲しました。

今後の展開 金融緩和は継続だが、9月頃から量的緩和縮小が視界に入ろう

- 今回の会合では、金融政策が据え置かれましたが、ECBによる景気評価が僅かながら前進し、物価も底入れしつつあるため、9月理事会頃からのタイミングで量的金融緩和縮小が発表されると考えられます。
- 「資産購入プログラム終了後もかなりの期間、政策金利は現行水準で推移」とのフォワードガイダンスから判断すると、政策金利は、少なくとも18年末まで据え置かれると予想されます。



(注) データは2014年1月1日～2017年6月8日。
政策金利はMain Refinancing Operations 金利。
預金金利はDeposit Facility 金利（翌日物）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友
アセットマネジメント作成



(注1) ECB資産残高は2010年12月31日～2017年6月2日（週次）。
(注2) 消費者物価指数は2010年12月～2017年5月（月次、前年同月比）。消費者物価コア指数は全体からエネルギーと食品を除いたもの（同上）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年6月 7日 7月に国債大量償還が迫る「ギリシャ」（欧州） 2017年5月12日 最近の英国経済・市場動向（2017年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。